

UNION PRESS

2009年3月 No2

新書記長からの挨拶

野井真吾（教育学部）

教育学部の野井真吾と申します。この1年間、書記長を務めさせていただくことになりました。そうはいっても、私としては、埼玉大学に来てからも、組合員になってからも、まだ3年足らずという新米です。“あれよあれよ”という間に決まってしまったというのが本音で、少々どころか“かなり”戸惑っております。未だに、私で務められるのか不安でもあります。そんな私が、最終的に引き受ける決意をしたのには大きく2つの理由がありました。

1つは、野中前執行委員長と安藤執行委員長から「前世代が築いてきた運動をどのように受け継ぎ、どのように発展させていくか、ということを活発に議論すべきである」との趣旨のお話を聞いた時、「確かに！」と思った（思ってしまった）からです。このことは、前回のUP（2009年2月No.1）で安藤執行委員長が指摘している通りでもあります。また、もう1つは、私自身が国際的な知恵ともいえる組合運動について学ぶ機会にしたいと考えたからです。その意味では、山積する諸問題に向き合う中でいろいろと学んでいきたいと想っています。また、教育研究集会などを通して、先達の想いや苦労話などもお聞きできればとも期待しています。

とにもかくにも、組合員や執行委員会の皆様の足だけは引っ張らないように、でも、“楽しみながら”やっつけようと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

「そよかぜ保育室」4月3日（金）開園予定！

皆様、こんにちは。「埼玉大学保育施設設置のための準備会」です。学内保育設置に向けて多々ご協力を頂き、皆様には心より感謝申し上げます。おかげさまで3月末には工事が完了し、4月3日（金）に開園予定となりました。学内保育施設の名称は「そよかぜ保育室」、その運営は「特定非営利活動法人そよかぜ」（3月2日に登記完了）が大学からの委託を受けて行います。

2月20日現在、155名の方々、埼玉大学教職員組合と生活協同組合職員有志の2団体から、計91万円のご寄付を頂きました。本当にありがとうございました。いただいた寄付金は、「子どもの食事をつくるためのシステムキッチン」「大型冷蔵庫」「子どもの荷物を置くための棚」の設置のために使用させていただきます。しかしながら、当初の目標額200万円にはまだ達しておりません。別に配布させて頂きます寄付のお願いのチラシをご覧頂き、引き続きご協力をお願い申し上げます。

埼玉大学のすべての教職員および学生の子育てを支援する「そよかぜ保育室」は、利用者のニーズに柔軟に対応できる保育の提供、異文化共生保育の推進、研究と教育の場としての活用、さらには、男女共同参画社会の実現に大きく貢献するものです。皆様には、是非 NPO 会員になっていただきたくお願い申し上げます。会費は正会員・年 3 千円、賛助会員・年 1 万円です。お問い合わせ、お申し込みは、代表幹事の伊藤博明（教養学部 hito@mail.saitama-u.ac.jp）までお願いいたします。

開園にかかわっていくつか行事を予定しております。詳しくはまた、改めて皆様にお知らせいたします。今後とも皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

文責・山中冴子（教育学部）

道州制と大学間連携によせて

例によって、「よせばいいのに」の問題提起を一席。

少し前の日本経済新聞の地方版に「北関東州で決まりか」という記事が出ました（2月26日）。記事の内容をかいつまんで紹介すると：(1) 埼玉県は行政は、道州制に移行した場合、「北関東州入り」を既成事実化しようとしているように見える。(2) 埼玉県の経済界も、地産地消、川の再生など環境政策、新潟や群馬との連携、安い地価を活かした企業誘致など、「北関東州色」が強い。(3) しかし、県南を中心に南関東州入りを望む声も多い。首都圏というブランド力の低下を恐れる経営者の声もある。

これらの点をふまえた上で、「区割りの確定はこれからだが、埼玉経済界や行政の動きは、埼玉が北関東州入りを望むメッセージとして中央に受け取られることだろう。たとえ埼玉都民がある程度流出するリスクを抱えても、チャンスととらえて賭に出るべきか、埼玉は岐路に立っている」とまとめています。

迂闊な話ですが、正直、「道州制の議論ってこんなに進んでいるの！」と驚きました。

埼玉大学の次期中期計画で、他大学との連携がどの程度、どの方向性で記載されるのかは未知数です。ですが、いずれにしても、上記のような道州制のゆくえは無視できないでしょう。かりに本当に埼玉県が北関東州入りを目指すとき、埼玉大学が南関東を志向することは現実的ではありません。かりにさいたま市が「北関東州の州都」となれば、埼玉大学は州都の大学となるわけです。

他大学との連携は、ペースと形態はさまざまでしょうが、今後も進んでいくでしょう。埼玉以南にある大学との連携も可能性がないわけではありません。しかし、「連携の軸」をどこに置くかは、埼玉大学の将来を大きく左右するでしょう。大局的な視野に立って、次期中期のヴィジョンを描かなければなりません。そのためには、役員会の中だけで話し合わずに、「学内対話」の方針を貫くべきです。そうすることで、各部署の本音がぶつかり合って、ベストの結論が見えてくるはずで。

そして当然、その話し合いには「労使のルート」も加わらなければなりません。われわれは、次期中期計画にかんする当局の説明がいつ、どのようなかたちで組合・過半数代表に対してなされるのかについて重大な関心をもっています。

発行元：埼玉大学教職員組合

Tel&Fax 048. 853. 5609（内 3160）

E-mail:saidaikumiai@hotmail.co.jp

HP: <http://19.pro.tok2.com/~saidaikumiai/>

組合事務室は生協第二食堂内（理髪店『PONO』お隣）月～金、午後 12 時～5 時開室